

医療系の学会は診療科別や疾患別、また職能別にそれぞれ多くの会があります。その中で薬剤師の学会もいくつかあり、私が所属している会をご紹介します。

まずは『日本病院薬剤師会』。名称の通り、日本の病院に所属する薬剤師が入会する学会です。学会発表の場である学術大会は9ブロックに分けて開催されます。『日本医療薬学会』は所属に関係なく主に薬剤師が入会しています。また、『日本精神薬学会』は精神科薬剤師が主に入会している、比較的新しい学会です。いずれの学会も入会規定に薬剤師資格はありません。

薬局として初めて学会発表を行ったのは 2013 年の日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会でした。新潟開催ということで県内各病院から 1 題以上発表せよとの指令があり、その前年の会にポスター発表を見にいきました。「あ、こんなテーマが発表になるんだ」「こんなまとめ方があるんだ」など身近な課題を取り上げている発表が多く、私でもできるかもしれないと思ったところからのスタートでした。それ以来コロナ期の数年を除きほぼ毎年ポスター発表をこの 3 学会のいずれかで行ってきました。

テーマは抗菌剤の使用について、心理教育について、処方調査についてなど日常業務で取り組んでいることを取り上げ、データ化し、分析してまとめてきました。最近はクロザリルに関する研究が続いています。当院のクロザリルの使用状況をまとめた回で、院内の倫理審査の際に「クロザリルの脱落例はどうなっているのか」という質問があり、次の年は脱落例をテーマにしました。するとその回の審査会では「効果不十分での切り替え事例を知りたい」とのご意見があり、次のテーマは効果不十分事例と決めました。

12 年間で行ってきた研究の中には県内精神科 4 施設との共同研究もありました。1 施設だけでは症例数が限られますが、5 施設集まると分析に足りるだけの数が集まります。各施設の独自性と共通性がみられて面白い研究でした。

発表の数はある程度積んできましたが、事例報告的な内容が多く、分析や考察が甘いと課題を毎回感じています。近年各学会で研究についての研修会が多く開催され、また崇徳大学からの支援も始まるので、さらに研鑽を積み、次につながる研究を続けたいと思っています。